

(5) 介護サービス事業所における
医療職の勤務実態および

医療・看護の提供実態に関する横断的な調査
(結果概要)

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

1. 調査の目的

- 本調査では、介護サービス事業所における医療職種のうち医師、看護職員の配置について、配置数・雇用形態及び業務内容、入所者の特性の実態、および介護保険施設等における日常的な医療的ケアの実施状況および看取りの実施状況を把握し、これらの事業所の特性に応じた医療職種の配置のあり方について検討を行う。

2. 調査方法

※医療療養病床の抽出に使用した名簿は、入院基本料等の施設基準について、厚生(支)局へ届出されたものを利用した。

- 特別養護老人ホーム:母集団6,784、発出数1,600、回収数716、(有効回収率44.4%)老人保健施設:母集団4,010、発出数1,600、回収数815(有効回収率50.2%)介護療養病床を有する介護療養型医療施設:母集団1,506、発出数1,506、回収数774(有効回収率49.6%)医療療養病床を有する医療機関:母集団3,669、発出数1,000、回収数333(有効回答率30.3%)
- 抽出方法は、特別養護老人ホーム、老人保健施設は各1,600施設ずつ無作為抽出、医療療養病床を有する医療機関は各1,000施設ずつ無作為抽出、介護療養病床を有する介護療養型医療施設は悉皆調査とした。自記式調査票(施設票、従事者票(医師1名、看護職員1名))、利用者票(各施設において全利用者の1/10無作為抽出)を郵送で配布・回収を行った。

3. 調査結果概要

- 介護療養病床や医療療養病床では、医師が常駐しており対応しやすいため、種々の医療的診断・処置が必要な際に呼び出しを受けることが多く、相対的に看取り対応の割合が低くなる一方、特別養護老人ホームでは「看取り期の対応」が55%を占め、医療的診断・処置が必要な際に呼び出しを受けることの割合は少なかった。
- 看取りの実施方針について、特別養護老人ホームおよび老人保健施設では、半数以上の施設で「看取り期に入った利用者に対し、個別に看取り計画を立てて看取りを行っている」との回答であった。すべての施設類型において、30%以上の施設が「看取り介護を行うための夜間の体制が十分でない」という課題を挙げている。
- 入院・入所者の要介護度は、介護療養病床で要介護4と5の者が約9割を占め、特別養護老人ホーム・老人保健施設と比べて重度者が多かった。医療区分(Ⅱ+Ⅲ)の割合は、介護療養病床では4割程度を占め、医療療養病床では7割を占めた。認知症がある入院・入所者の割合は、介護療養病床では約8割を占めるが、医療療養病床では6割であった。
- 看護職員が判断する最も適切と考えられる療養の場について、特別養護老人ホーム、介護療養病床、医療療養病床ともに自施設類型が適切との割合が最も高かったが、老人保健施設においては、自施設類型以外の「特別養護老人ホーム」、「自宅」が適切と考えられる者の割合も高かった。
- 介護療養病床の病床転換意向についてみると、転換の予定は未定が約8割を占め、その理由として「今後の報酬水準および政策動向をみて判断したいため」、「地域における、介護病床のニーズが高いため」が多かった。

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

1. 施設の基本属性

○特別養護老人ホームでは要介護4、5の者の割合がともに30%程度と多く、老人保健施設では要介護1、2の割合が他施設と比較するとやや高かった。また、介護療養病床では要介護5の者の割合が50%を超えていた。

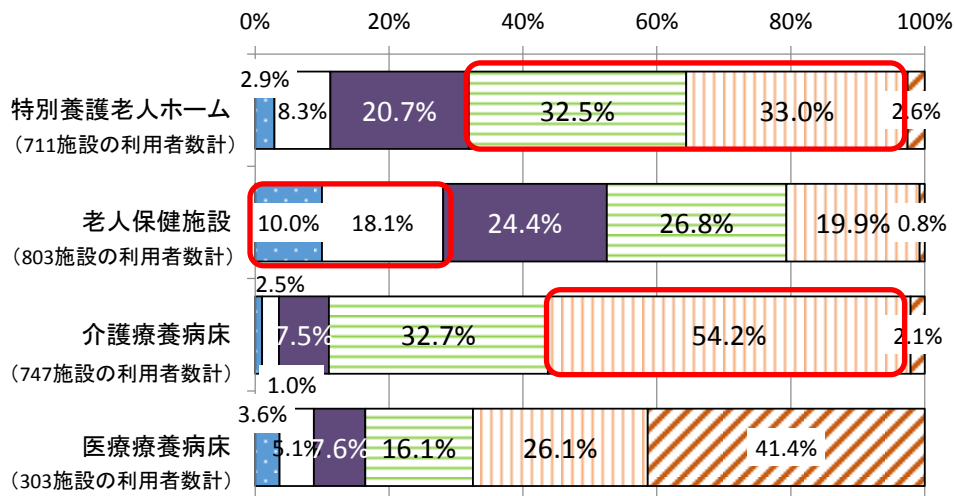
図表1 開設主体

	施設数	公立	社会福祉法人	医療法人	社団・財団法人	個人	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	3.2%	96.2%	-	-	-	0.6%	-
老人保健施設	803	3.6%	15.9%	70.9%	4.2%	-	4.9%	0.5%
介護療養病床	747	4.5%	-	81.7%	2.3%	5.8%	4.3%	-
医療療養病床	303	2.6%	-	76.2%	3.3%	3.3%	8.6%	-

図表2 定員数(人)

	施設数	平均値	標準偏差
特別養護老人ホーム	711	76.6	28.2
老人保健施設	803	90.2	31.3
介護療養病床	747	46.8	53.0
医療療養病床	303	71.5	58.9

図表3 要介護度別利用者数割合



図表4 100床あたり平均職員数(人)

【特別養護老人ホーム(n=711)、老人保健施設(n=803)】

	特別養護老人ホーム	老人保健施設
医師	0.2	1.4
看護職員	6.1	11.7
うち看護師	4.5	6.4
介護職員	45.0	34.3
うち介護福祉士	24.9	21.5

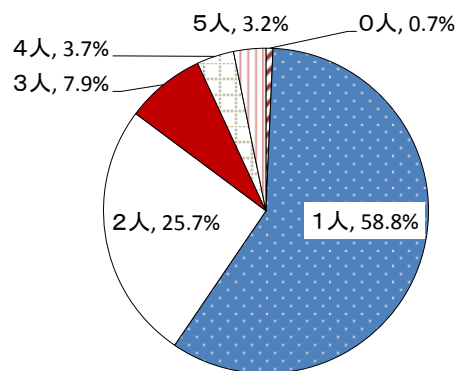
※開設主体および要介護度別利用者数割合について、母集団との比較および、平成23年度介護サービス施設・事業所調査結果と比較したところ、大きな差は見られなかった。

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

2-1. 医師の勤務状況(特別養護老人ホーム)

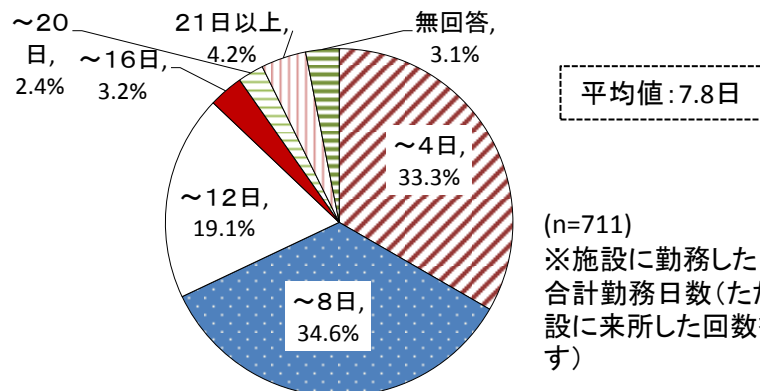
○特別養護老人ホームにおいて、施設に一月間に勤務した医師数(1施設の合計)は「1人」が最も多く、58.8%であった。勤務日数は1施設当たり「～4日」「～8日」がそれぞれ33.3%、34.6%と同程度であり、平均は7.8日であった。また、合計勤務時間は1施設当たり「～10時間」「～20時間」がそれぞれ38.1%、35.3%と同程度であり、平均は17.5時間であった。

図表5 一月間に勤務した医師数(1施設当たり)



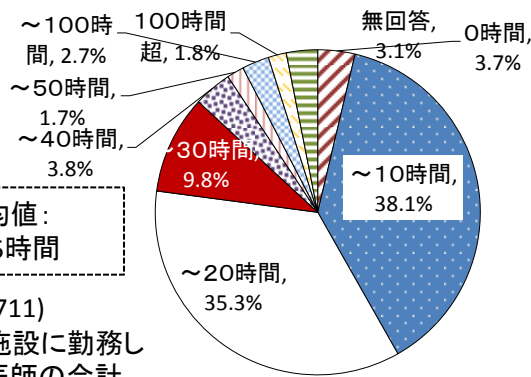
(n=711)
※施設に勤務した医師の実人数の合計

図表6 医師の一月間の勤務日数(1施設当たり)



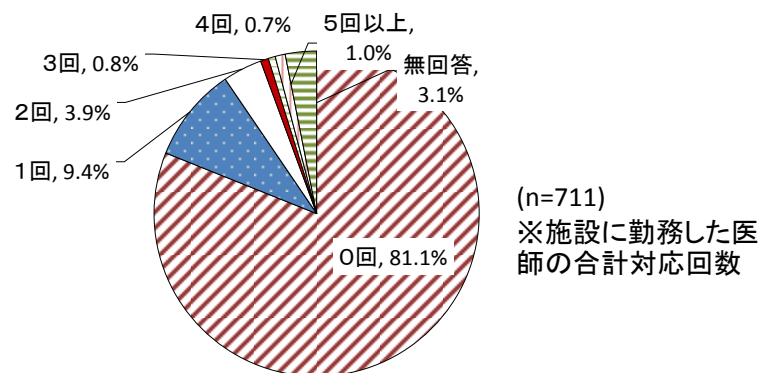
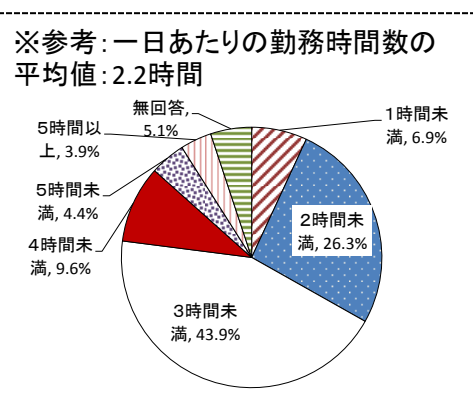
(n=711)
※施設に勤務した医師の合計勤務日数(ただし、施設に来所した回数を示す)

図表7 医師の一月間の合計勤務時間(1施設当たり)



(n=711)
※施設に勤務した医師の合計勤務時間数

図表8 医師の一月間の夜間の対応回数(1施設当たり)



(n=711)
※施設に勤務した医師の合計対応回数

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

2-2. 看護職員の夜間の勤務状況

- 夜勤を行った日(オンコール勤務は含まない)のうち、直近の一日の業務内容について尋ねた(途中からオンコール勤務に切り替えた場合は、以降の時間は含まない)。
- 特別養護老人ホームにおいては、1か月間(平成26年6月)に夜間勤務があったと回答したのは、調査対象となった看護職員のうち6.4%であった。一方、老人保健施設ではほぼ9割、介護療養病床、医療療養病床ではほぼすべてであった。
- 夜勤を行った日の看護職員の夜間の平均勤務時間は、特別養護老人ホームで7.6時間、老人保健施設・介護療養病床・医療療養病床ではそれぞれ15.6～15.7時間程度であった。
- どの施設類型とも「健康管理、健康状態確認」に割く時間が長く、老人保健施設以外では1割以上を占めていた。特別養護老人ホームでは「看取りへの関与」「診療の補助」に割く時間が他の施設類型に比べ長い傾向にあった。

図表9 看護職員の夜間の勤務状況

	特別養護老人ホーム n=675		老人保健施設 n=782		介護療養病床 n=728		医療療養病床 n=281	
	平均 値	(単位: 分) %	平均 値	(単位: 分) %	平均 値	(単位: 分) %	平均 値	(単位: 分) %
該当サービス以外に従事	6.8	1.2%	2.9	0.3%	50.9	5.5%	12.4	1.2%
業務準備(自身の身支度等の業務に向けての準備)	8.0	2.3%	16.8	1.9%	19.3	2.1%	20.1	2.2%
健康管理(バイタルサイン確認(入浴・リハビリテーション時等の確認を除く)、健康状態確認(日常会話、声かけによる確認を含む))	55.0	12.4%	78.0	8.3%	103.8	11.1%	134.2	14.2%
診療の補助	32.6	7.0%	9.0	1.2%	10.8	1.1%	12.5	1.3%
移動の介助	8.6	1.7%	38.2	4.0%	24.5	2.6%	20.1	2.2%
居室、リビング等での見守り	14.1	2.2%	76.3	7.9%	28.0	3.0%	21.7	2.3%
食事介助(配膳、下膳含む)	30.3	6.9%	76.4	8.2%	76.3	8.2%	70.0	7.5%
排泄ケア	10.4	1.8%	80.1	8.4%	89.6	9.7%	84.5	9.1%
服薬介助(服薬の見守り、服薬状況の確認を含む)	17.5	3.4%	40.8	4.4%	34.2	3.6%	33.1	3.5%
口腔ケア	8.5	1.8%	27.6	3.0%	35.1	3.8%	34.5	3.7%
記録(リハビリ記録を除く)	31.7	7.1%	68.4	7.3%	91.5	9.8%	108.2	11.6%
会議 ※看取りに関するもの以外	21.7	5.6%	5.7	0.7%	4.0	0.4%	2.3	0.3%
連絡・調整	13.8	3.1%	25.9	2.8%	21.9	2.4%	20.4	2.2%
利用者/患者・家族への対応 ※看取りに関するもの以外	15.5	3.4%	17.9	2.1%	12.0	1.3%	16.2	1.7%
ナースコール対応	7.4	1.2%	55.1	5.7%	33.2	3.6%	42.1	4.6%
看取りへの関与	24.3	9.0%	7.5	1.2%	6.6	0.7%	6.5	0.7%
服薬管理(薬の区分け・与薬の準備、配布を含む)	34.4	6.8%	50.0	5.4%	38.6	4.1%	41.5	4.4%
巡視	17.0	4.1%	68.0	7.2%	76.8	8.2%	79.7	8.4%
更衣介助	9.5	1.6%	26.9	2.8%	15.6	1.7%	13.5	1.4%
休憩	41.0	7.1%	111.3	12.1%	115.9	12.4%	115.4	12.3%
その他	44.7	10.1%	50.5	5.1%	49.1	5.2%	54.7	5.7%
合計	458.3		933.0		936.5		942.3	

※夜間の業務内容に要した時間(分)および夜間の総勤務時間に占めるそれぞれの業務時間の割合(%)の平均値を示した。

※各業務内容について、無回答分は除いて平均値を算出した。

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

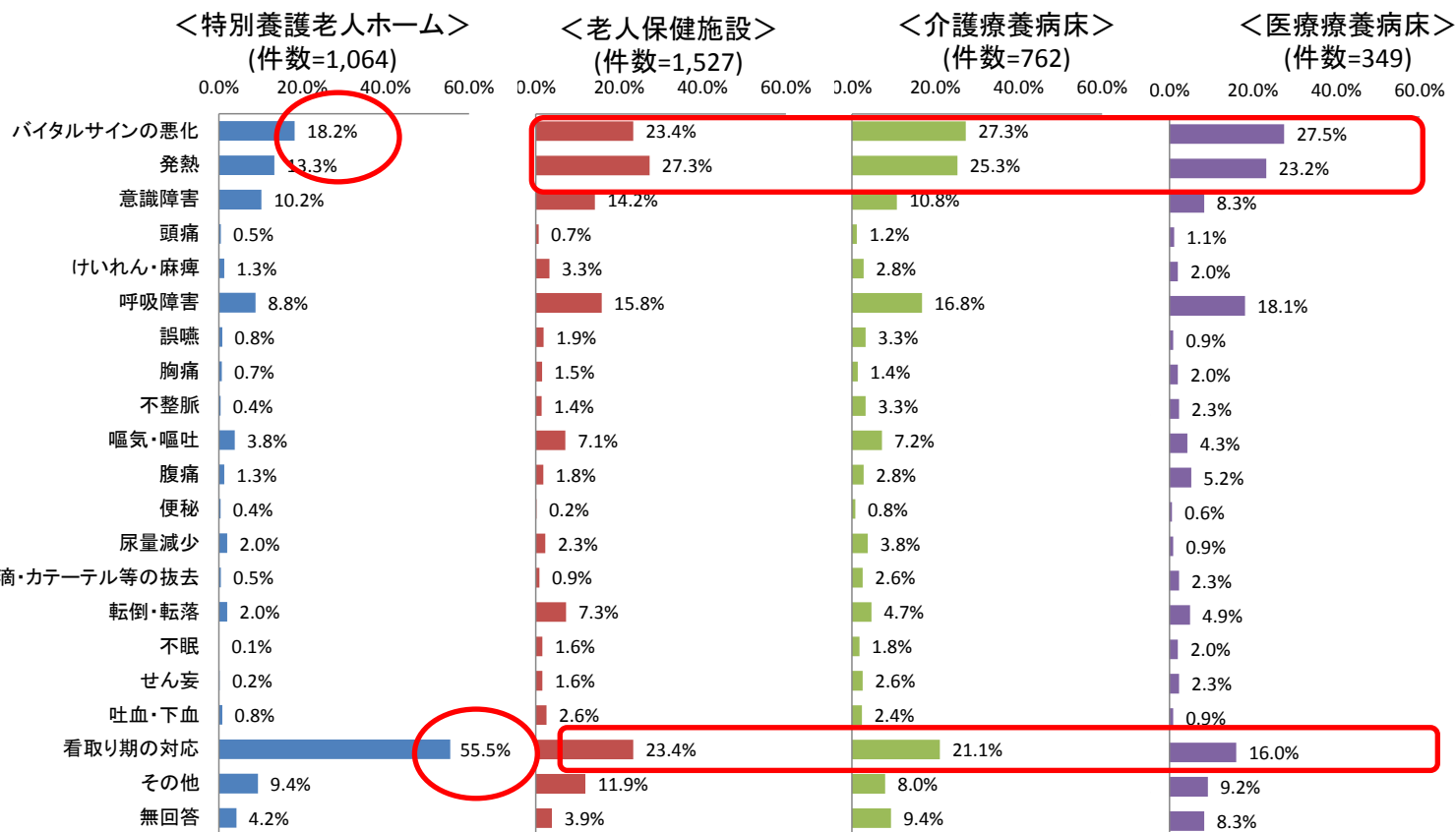
3-1. 夜間の対応の理由

○特別養護老人ホームでは「看取り期の対応」が55.5%を占め、その他「バイタルサインの悪化」「発熱」などが他の理由と比べ高かった。

○老人保健施設、介護療養病床、医療療養病床では、「バイタルサインの悪化」や「発熱」で呼び出される割合が高かった。

※特別養護老人ホーム、老人保健施設については「オンコールの理由」を、介護療養病床、医療療養病床については当直日における「呼び出しの理由」を尋ねた。

図表10 利用者／患者の状況(オンコールまたは当直時に呼び出された理由)(複数回答)



※調査票を記載した医師は、施設において通常もっとも長い時間勤務している者とした。
※オンコール／呼び出しの回数を5回まで記載することとした。

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

3-2. 夜間の対応の内容(医師)

○特別養護老人ホームでは「看取り・死亡診断」が63.5%、それ以外の施設では20~30%を占めていた。

○老人保健施設、介護療養病床、医療療養病床では「診察」の割合が最も高く、その他「投薬」「輸液」の等の割合が他の内容と比べて高かった。

※特別養護老人ホーム、老人保健施設については「オンコールにおける処置内容」を、介護療養病床、医療療養病床については当直日における「呼び出しの際の処置内容」を尋ねた

図表11 処置内容等(複数回答)

	件数	診察	蘇生処置	看取り・死亡診断	血液検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	他送医療機関へ搬	その他	無回答
介護老人福祉施設	1064	269 25.3%	15 1.4%	676 63.5%	23 2.2%	61 5.7%	66 6.2%	82 7.7%	83 7.8%	60 5.6%	64 6.0%
介護老人保健施設	1527	497 32.5%	42 2.8%	410 26.9%	41 2.7%	235 15.4%	262 17.2%	319 20.9%	268 17.6%	225 14.7%	142 9.3%
介護療養型医療施設	762	421 55.2%	43 5.6%	175 23.0%	27 3.5%	145 19.0%	156 20.5%	176 23.1%	12 1.6%	77 10.1%	91 11.9%
医療療養病床	349	225 64.5%	16 4.6%	70 20.1%	15 4.3%	55 15.8%	81 23.2%	87 24.9%	5 1.4%	27 7.7%	31 8.9%
合計	3702										

図表12 「看取り期の対応」の際に実施した処置内容(複数回答)

	件数	診察	蘇生処置	看取り・死亡診断	血液検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	他送医療機関へ搬	その他	無回答
介護老人福祉施設	591	79 13.4%	4 0.7%	555 93.9%	-	20 3.4%	3 0.5%	4 0.7%	3 0.5%	8 1.4%	12 2.0%
介護老人保健施設	358	78 21.8%	12 3.4%	326 91.1%	1 0.3%	28 7.8%	3 0.8%	13 3.6%	-	29 8.1%	8 2.2%
介護療養型医療施設	161	65 40.4%	19 11.8%	127 78.9%	3 1.9%	34 21.1%	4 2.5%	18 11.2%	2 1.2%	10 6.2%	8 5.0%
医療療養病床	56	17 30.4%	4 7.1%	45 80.4%	-	4 7.1%	4 7.1%	4 7.1%	-	3 5.4%	4 7.1%
合計	1166										

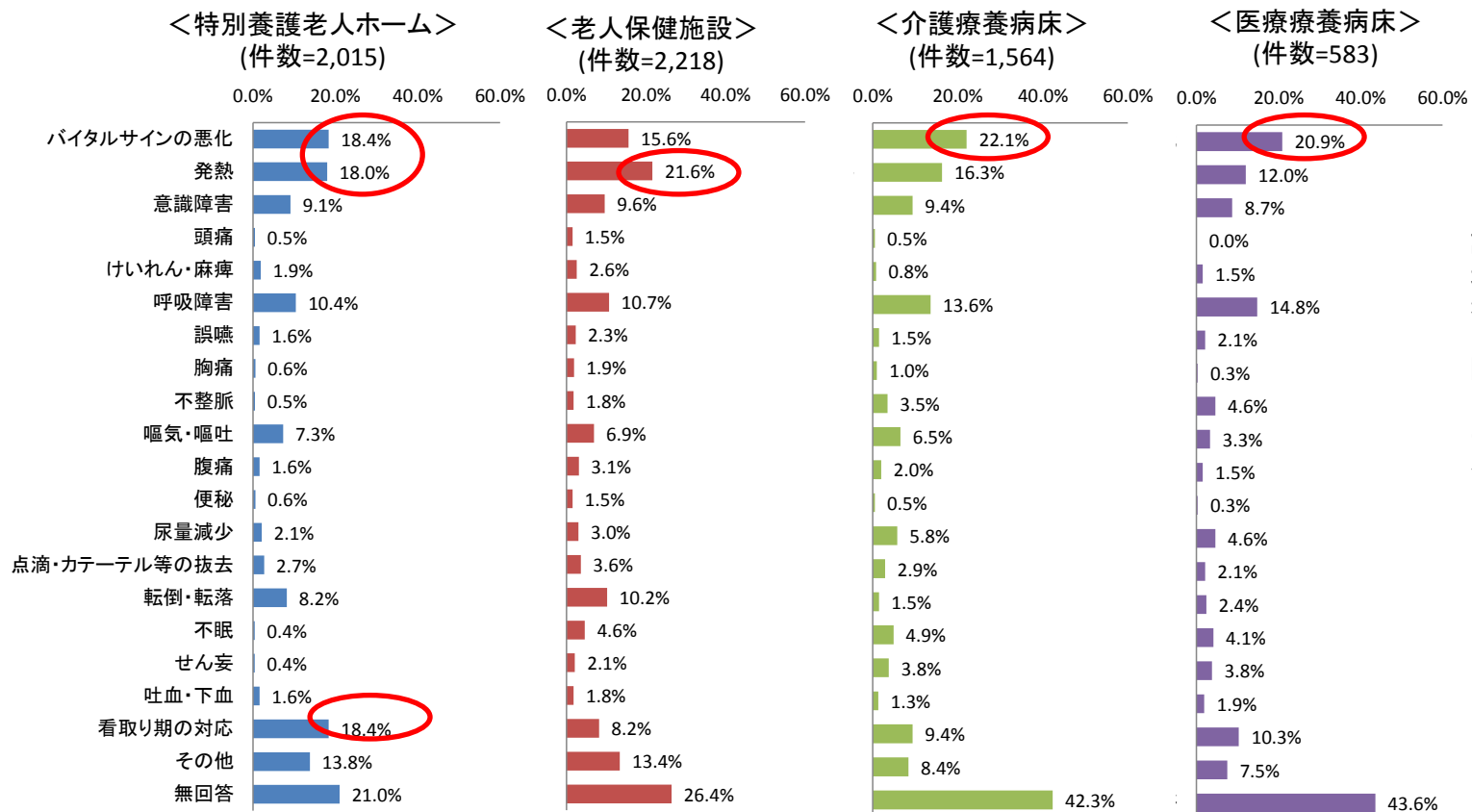
(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

3-3. 夜間の対応の理由(看護職員)

○特別養護老人ホームでは「看取り期の対応」が18.4%であり、「バイタルサインの悪化」「発熱」で呼び出される割合とほぼ同様であった。老人保健施設では「発熱」が最も多く、介護療養病床と医療療養病床では「バイタルサインの悪化」が最も多かった。

※特別養護老人ホームについては「オンコールの理由」を、老人保健施設、介護療養病床、医療療養病床については夜間勤務日における「緊急対応の理由」を尋ねた。

図表13 利用者／患者の状況(オンコールまたは緊急対応の際、呼び出された理由)(複数回答)



※調査票に記載した看護職員は、施設において過去1ヶ月に夜勤帯に勤務をされた看護職員の内、通常もっとも長い時間勤務している者とした。
※オンコール／呼び出しの回数は5回まで記載することとした。

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

3-4. 夜間の対応の内容(看護職員)

○どの施設類型においても、「医師への連絡・相談」が多く、2割以上を占めていた。また、看取り期の対応の際に実施した処置内容についてみると、介護療養病床、医療療養病床で医療処置の補助が多かった。

※特別養護老人ホームについては「オンコールにおける対応内容」を、老人保健施設、介護療養病床、医療療養病床については夜間勤務日における「緊急対応の内容」を尋ねた。

図表14 処置内容(補助を含む)(複数回答)

	件数	診察	創傷を伴う処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術(含む内科)	医師への連絡・相談	他医療機関へ搬送	その他	無回答	
特別養護老人ホーム	2015	276 13.7%	9 0.4%	74 3.7%	35 1.7%	328 16.3%	45 2.2%	42 2.1%	33 1.6%	37 1.8%	176 8.7%	156 7.7%	85 4.2%	1 0.0%	446 22.1%	305 15.1%	497 24.7%	547 27.1%	
老人保健施設	2218	352 15.9%	5 0.2%	154 6.9%	37 1.7%	144 6.5%	57 2.6%	46 2.1%	55 2.5%	28 1.3%	251 11.3%	283 12.8%	332 15.0%	1 0.0%	652 29.4%	305 13.8%	433 19.5%	644 29.0%	
介護療養病床	1564	268 17.1%	3 0.2%	16 1.0%	32 2.0%	109 7.0%	33 2.1%	30 1.9%	58 3.7%	21 1.3%	244 15.6%	78 5.0%	232 14.8%	1 0.1%	368 23.5%	13 0.8%	242 15.5%	757 48.4%	
医療療養病床	583	96 16.5%	5 0.9%	11 1.9%	21 3.6%	53 9.1%	11 1.9%	13 2.2%	13 2.2%	6 1.0%	108 18.5%	47 8.1%	69 11.8%	-	150 25.7%	2 0.3%	97 16.6%	268 46.0%	
合計	6380																		

図表15 「看取り期の対応」の際に実施した処置内容(補助を含む)(複数回答)

	件数	診察	創傷を伴う処置(縫合)	創傷以外の処置(縫合)	蘇生処置	看取り・死亡診	抜去されたカテーテル類の再留	血液検査	心電図検査	画像検査	酸素投与	投薬(輸液を除く)	輸液	緊急手術(含む内科)	医師への連絡・相談	他医療機関へ搬送	その他	無回答	
特別養護老人ホーム	371	68 18.3%	1 0.3%	4 1.1%	12 3.2%	293 79.0%	5 1.3%	2 0.5%	9 2.4%	1 0.3%	42 11.3%	4 1.1%	6 1.6%	1 0.3%	175 47.2%	10 2.7%	74 19.9%	11 3.0%	
老人保健施設	181	42 23.2%	-	6 3.3%	8 4.4%	117 64.6%	4 2.2%	8 4.4%	8 4.4%	1 1.1%	36 19.9%	16 8.8%	50 27.6%	-	82 45.3%	3 1.7%	46 25.4%	4 2.2%	
介護療養病床	147	53 36.1%	1 0.7%	2 1.4%	13 8.8%	75 51.0%	1 0.7%	2 1.4%	24 16.3%	5 3.4%	7 4.8%	-	32 21.8%	-	88 59.9%	1 0.7%	26 17.7%	9 6.1%	
医療療養病床	60	20 33.3%	3 5.0%	3 5.0%	6 10.0%	38 63.3%	1 1.7%	4 6.7%	6 10.0%	4 6.7%	23 38.3%	5 8.3%	11 18.3%	-	38 63.3%	-	12 20.0%	5 8.3%	
合計	759																		

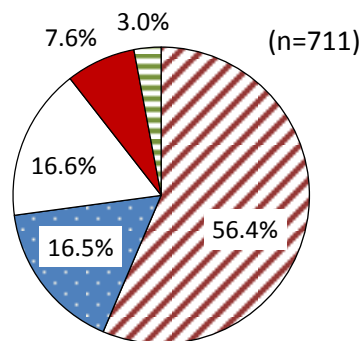
(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

4-1. 看取りの状況

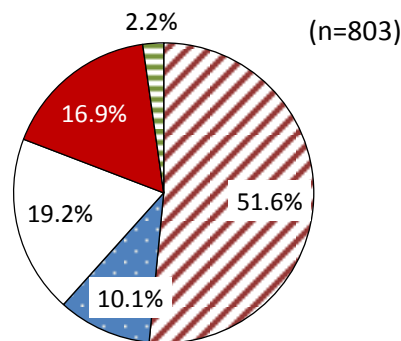
○看取りの実施方針について、特別養護老人ホームおよび老人保健施設では、半数以上の施設で「看取り期に入った利用者に対し、個別に看取り計画を立てて看取りを行っている」との回答であった。介護療養病床、医療療養病床では「看取り期に入った利用者に対し看取りは行っているが、看取りの計画は立てていない」という回答が50%~60%を占めていた。

図表16 看取りの実施方針(施設票)

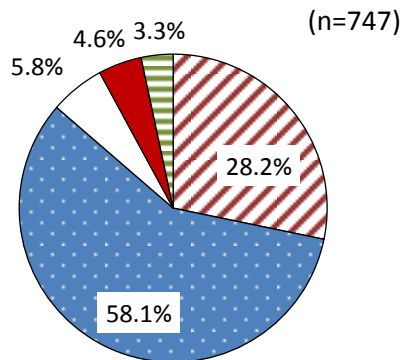
① 特別養護老人ホーム



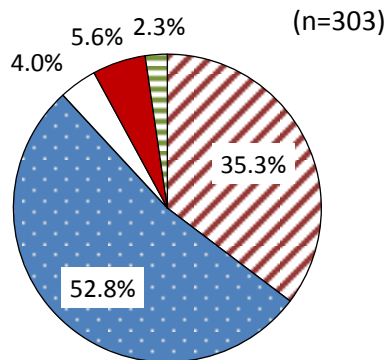
② 老人保健施設



③ 介護療養病床



④ 医療療養病床

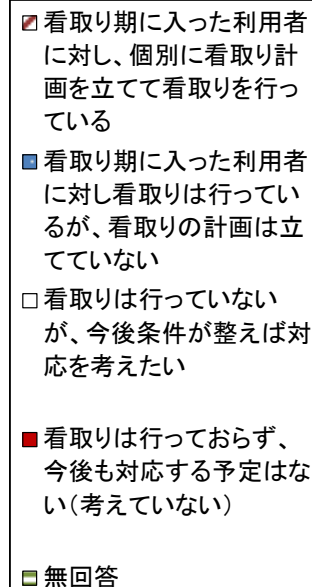


最期まで施設で看取った人数

(2014年4月~6月)

※()内は定員(病床)数に占める割合

① 特別養護老人ホーム	: 1.8人 (2.4%)
② 老人保健施設	: 1.4人 (1.7%)
③ 介護療養病床	: 3.5人 (7.1%)
④ 医療療養病床	: 7.1人 (12.3%)



(5)介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

4-2. 看取りの状況

○死亡退所者の内訳をみると、老人保健施設では「個別看取り計画を立てた利用者数」は全体の56.4%を占めていた。一方、他の施設類型では3割程度であった。

○看取りに関する希望を聞いているかを尋ねたところ、利用者本人に「希望を聞いていない」と回答した施設が4割～5割である一方、利用者の家族には入所・入院時や病状が悪化した際に希望を聞いている施設が多数を占めていた。

図表17 死亡退所のうち、個別に看取り計画を立てた者の割合

	件数	死亡退所者 0人だった施設	0%	20%未満	40%未満	60%未満	80%未満	100%未満	100%	無回答	(単位:%) 平均値	標準偏差		
特別養護老人ホーム	711	200	28.1%	30.9%	0.6%	4.1%	5.8%	6.6%	4.0%	14.5%	8.3%	12.1%	31.3	37.7
老人保健施設	803	392	48.8%	16.1%	0.1%	1.7%	2.1%	4.4%	4.2%	34.1%	2.1%	20.2%	56.4	43.8
介護療養病床	747	267	35.7%	37.5%	0.1%	0.9%	0.9%	1.1%	2.3%	17.1%	1.9%	16.6%	34.2	45.4
医療療養病床	303	41	13.5%	53.1%	0.7%	2.0%	1.7%	3.3%	5.0%	52.1%	17.2%	3.6%	30.6	43.2

図表18 利用者本人の看取りに関する希望

	施設数	入所・入院時に希望を聞いていない	病状が悪化した際に希望を聞いていない	希望を聞いていない	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	189	114	267	61	78
老人保健施設	803	77	207	408	50	61
介護療養病床	747	126	131	350	95	45
医療療養病床	303	58	45	149	39	13

図表19 利用者の家族の看取りに関する希望

	施設数	入所・入院時に希望を聞いていない	病状が悪化した際に希望を聞いていない	希望を聞いていない	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	258	257	74	19	103
老人保健施設	803	134	389	177	21	82
介護療養病床	747	295	320	43	23	66
医療療養病床	303	139	117	24	8	15

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

4-3. 看取りの状況

- 特別養護老人ホームおよび老人保健施設においては、看取りの各対応に看護職員が関与している割合が高く、また特別養護老人ホームでは介護職員や生活相談員が関与している割合が高かった。
- 介護療養病床においては、医療機関としての性格を反映し、本人等への説明や同意取得には医師が高い割合で関与し、看護職員による看取り指針や計画の作成等への関与は他の類型より少なかった。
- 全体として、看取りの初期段階(説明や情報共有)などにおいては医師が主として関与し、その後は看護職員が主として関与していた。

図表20 看取りの各対応に関与している職種(複数回答可)

	介護老人福祉施設(n=518)				介護老人保健施設(n=495)				介護療養型医療施設(n=645)			
	医師	看護職員	介護職員	生活相談員	医師	看護職員	介護職員	支援相談員	医師	看護職員	介護職員	支援相談員
01 看取り指針・ガイドラインの作成	251 48.5%	393 75.9%	290 56.0%	367 70.8%	289 58.4%	386 78.0%	250 50.5%	274 55.4%	222 34.4%	299 46.4%	119 18.4%	51 7.9%
02 本人及び家族への説明	362 69.9%	419 80.9%	157 30.3%	409 79.0%	383 77.4%	391 79.0%	115 23.2%	274 55.4%	606 94.0%	482 74.7%	44 6.8%	68 10.5%
03 看取り期の判断に関する情報共有	437 84.4%	489 94.4%	447 86.3%	456 88.0%	391 79.0%	453 91.5%	397 80.2%	367 74.1%	531 82.3%	566 87.8%	405 62.8%	122 18.9%
04 看取り期の家族への説明、同意取得	360 69.5%	423 81.7%	174 33.6%	416 80.3%	370 74.7%	394 79.6%	118 23.8%	275 55.6%	578 89.6%	443 68.7%	38 5.9%	47 7.3%
05 看取りカンファレンスの開催	207 40.0%	450 86.9%	434 83.8%	418 80.7%	316 63.8%	429 86.7%	389 78.6%	356 71.9%	280 43.4%	393 60.9%	282 43.7%	87 13.5%
06 看取り計画作成(連絡・調整含む)	124 23.9%	360 69.5%	321 62.0%	341 65.8%	202 40.8%	364 73.5%	296 59.8%	270 54.5%	181 28.1%	342 53.0%	141 21.9%	63 9.8%
07 看取り計画の見直し	136 26.3%	378 73.0%	341 65.8%	327 63.1%	224 45.3%	389 78.6%	323 65.3%	245 49.5%	177 27.4%	312 48.4%	130 20.2%	55 8.5%
08 亡くなる際の付き添い	69 13.3%	419 80.9%	445 85.9%	252 48.6%	182 36.8%	434 87.7%	381 77.0%	106 21.4%	279 43.3%	521 80.8%	274 42.5%	15 2.3%
09 死亡直前の家族への連絡	35 6.8%	399 77.0%	279 53.9%	369 71.2%	102 20.6%	448 90.5%	202 40.8%	177 35.8%	219 34.0%	615 95.3%	149 23.1%	26 4.0%
10 死亡直前・直後の家族へのサポート	117 22.6%	432 83.4%	385 74.3%	430 83.0%	181 36.6%	437 88.3%	329 66.5%	278 56.2%	293 45.4%	597 92.6%	283 43.9%	63 9.8%
11 死後の処置	35 6.8%	492 95.0%	427 82.4%	97 18.7%	39 7.9%	472 95.4%	360 72.7%	25 5.1%	48 7.4%	626 97.1%	464 71.9%	-
12 施設内お見送り	98 18.9%	490 94.6%	490 94.6%	474 91.5%	331 66.9%	466 94.1%	452 91.3%	396 80.0%	554 85.9%	625 96.9%	551 85.4%	136 21.1%
13 家族へのグリーフケア	40 7.7%	303 58.5%	266 51.4%	351 67.8%	95 19.2%	310 62.6%	230 46.5%	248 50.1%	138 21.4%	358 55.5%	174 27.0%	54 8.4%
14 看取りの評価・振り返り	78 15.1%	419 80.9%	411 79.3%	391 75.5%	201 40.6%	375 75.8%	340 68.7%	283 57.2%	196 30.4%	375 58.1%	249 38.6%	56 8.7%

※現在、看取りを実施している施設の回答(施設票)

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

4-5. 看取りの状況

○4施設すべてにおいて、30%以上の施設が「看取り介護を行うための夜間の体制が十分でない」という課題を挙げている。

○今後の看取りへの取り組みに対する自身の意向を尋ねたところ、どの施設類型においても3割前後の医師が「積極的」と回答した。また特別養護老人ホームでは3割以上の看護職員が「積極的」と回答していた。

図表21 看取りに関する課題(複数回答可)

	施設数	施設が積極的でない方針として	医師が難しい医師(配対)	医療機関との連携	施設内職員の連携	看取り介護のため個室がない	利用者が医療的に観察できない	備置が足りない	施設内で少ない医療処置	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	看取りの看護職員の不足	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	49 6.9%	175 24.6%	160 22.5%	55 7.7%	124 17.4%	149 21.0%	209 29.4%	175 24.6%	14 2.0%	239 33.6%	213 30.0%	266 37.4%	78 11.0%	261 36.7%	31 4.4%	37 5.2%	41 5.8%	91 12.8%		
老人保健施設	803	186 23.2%	186 23.2%	117 14.6%	60 7.5%	315 39.2%	212 26.4%	222 27.6%	245 30.5%	179 22.3%	289 36.0%	330 41.1%	283 35.2%	68 8.5%	322 40.1%	53 6.6%	47 5.9%	22 2.7%	83 10.3%		
介護療養病床	747	106 14.2%	68 9.1%	52 7.0%	16 2.1%	299 40.0%	65 8.7%	122 16.3%	188 25.2%	14 1.9%	264 35.3%	149 19.9%	143 19.1%	24 3.2%	257 34.4%	13 1.7%	40 5.4%	43 5.8%	112 15.0%		
医療療養病床	303	42 13.9%	40 13.2%	27 8.9%	4 1.3%	98 32.3%	29 9.6%	53 17.5%	84 27.7%	5 1.6%	104 34.3%	65 21.5%	66 21.8%	11 3.6%	101 33.3%	8 2.6%	22 7.3%	30 9.9%	29 9.6%		

図表22 看取りへの取り組みに対する今後の意向(医師)

	件数	積極的	やや積極的	どちらでもない	やや消極的	消極的	無回答
特別養護老人ホーム	612	199 32.5%	117 19.1%	144 23.5%	17 2.8%	13 2.1%	122 19.9%
老人保健施設	767	188 24.5%	175 22.8%	201 26.2%	60 7.8%	66 8.6%	77 10.0%
介護療養病床	703	210 29.9%	184 26.2%	204 29.0%	15 2.1%	10 1.4%	80 11.4%
医療療養病床	273	84 30.8%	66 24.2%	79 28.9%	9 3.3%	8 2.9%	27 9.9%

図表23 看取りへの取り組みに対する今後の意向(看護職員)

	件数	積極的	やや積極的	どちらでもない	やや消極的	消極的	無回答
特別養護老人ホーム	675	230 34.1%	181 26.8%	144 21.3%	30 4.4%	24 3.6%	66 9.8%
老人保健施設	782	197 25.2%	217 27.7%	210 26.9%	66 8.4%	55 7.0%	77 9.8%
介護療養病床	728	174 23.9%	182 25.0%	282 38.7%	33 4.5%	9 1.2%	48 6.6%
医療療養病床	281	43 15.3%	86 30.6%	113 40.2%	13 4.6%	7 2.5%	19 6.8%

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

5. 看取り期における医療機関への搬送

○医療機関への搬送を決定した理由としては、介護療養病床と医療療養病床においては「緊急手術が必要となったため」の割合が20%程度と高かった。

○医療機関への搬送の際に見られた症状・状態については、特別養護老人ホームでは「バイタルサインの悪化」「発熱」がやや多く、介護療養病床と医療療養病床では他の施設と比べて「吐血、下血」がやや多かった。

図表24 医療機関(他の医療機関)への搬送を決定した理由(複数回答)

	施設数	家族・親族の希望	施設で行えないためケア	検査が必要となつた	施設で行えないため処	施設で行えないため投	必要となつたため	麻薬による疼痛管理	緊急手術が必要とな	施設で対応できない	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	263 37.0%	153 21.5%	158 22.2%	233 32.8%	57 8.0%	21 3.0%	33 4.6%	58 8.2%	30 4.2%	268 37.7%	
老人保健施設	803	291 36.2%	218 27.1%	261 32.5%	304 37.9%	121 15.1%	33 4.1%	73 9.1%	18 2.2%	271 33.7%		
介護療養病床	747	251 33.6%	101 13.5%	186 24.9%	226 30.3%	46 6.2%	19 2.5%	133 17.8%	34 4.6%	16 2.1%	333 44.6%	
医療療養病床	303	98 32.3%	36 11.9%	61 20.1%	89 29.4%	16 5.3%	3 1.7%	64 21.1%	13 4.3%	7 2.3%	129 42.6%	

最期に(他の)医療機関に搬送した人数
(2014年4月～6月)
※()内は定員(病床)数に占める割合

- ①特別養護老人ホーム :0.7人(0.9%)
- ②老人保健施設 :0.8人(0.9%)
- ③介護療養病床 :0.3人(0.8%)
- ④医療療養病床 :0.3人(0.4%)

図表25 医療機関への搬送の際に見られた症状・状態(複数回答)

	施設数	バイタルサインの悪化	発熱	意識障害	頭痛	けいれん・麻痺	呼吸障害	誤嚥	胸痛	不整脈	嘔気・嘔吐	腹痛	便秘	尿量減少	点滴等の抜去	転倒・転落	不眠	せん妄	吐血・下血	その他	無回答
特別養護老人ホーム	711	271 38.1%	177 24.9%	198 27.8%	6 0.8%	45 6.3%	164 23.1%	56 7.9%	23 3.2%	35 4.9%	56 7.9%	28 3.9%	5 0.7%	39 5.5%	4 0.6%	28 3.9%	4 0.6%	5 0.7%	41 5.8%	55 7.7%	282 39.7%
老人保健施設	803	307 38.2%	209 26.0%	250 31.1%	7 0.9%	84 10.5%	210 26.2%	54 6.7%	36 4.5%	39 4.9%	70 8.7%	44 5.5%	10 1.2%	61 7.6%	15 1.9%	66 8.2%	3 0.4%	9 1.1%	81 10.1%	86 10.7%	277 34.5%
介護療養病床	747	180 24.1%	114 14.9%	174 23.3%	9 1.2%	66 8.8%	147 19.7%	34 4.6%	44 5.9%	46 6.2%	35 4.7%	46 6.2%	6 0.8%	35 4.7%	8 1.1%	48 6.4%	3 0.4%	6 0.8%	81 10.8%	61 8.2%	361 48.3%
医療療養病床	303	65 21.5%	32 10.6%	58 19.1%	3 1.0%	22 7.3%	53 17.5%	4 1.3%	24 7.9%	24 7.9%	8 2.6%	22 7.3%	4 1.3%	16 5.3%	4 1.3%	21 6.9%	1 0.3%	4 1.3%	43 14.2%	33 10.9%	138 45.5%

(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

6-1. 入所者・入院患者の状況(基本属性)

- 入院・入所者の要介護度は、介護療養病床で要介護4と5の者が約9割を占め、特別養護老人ホーム・老人保健施設と比べて重度者が多い。
- 医療区分(Ⅱ+Ⅲ)の割合は、介護療養病床では4割程度を占め、医療療養病床では7割を占めた。
- 認知症がある入院・入所者の割合は、介護保険3施設では約8割を占めるが、医療療養病床では6割程度であった。

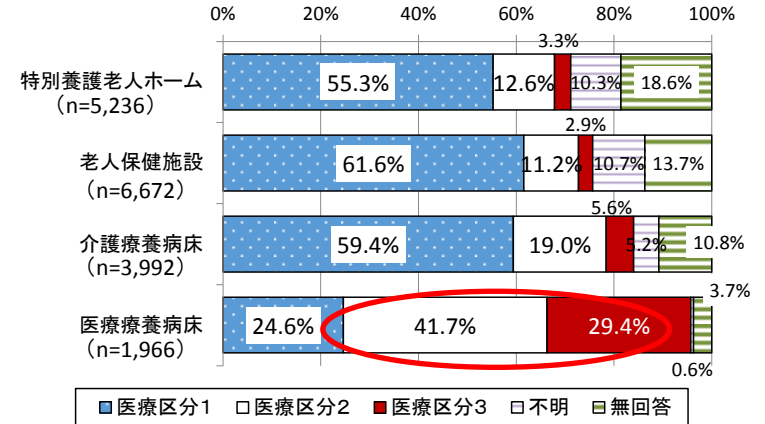
図表26 性別

	件数	男	女	無回答
特別養護老人ホーム	5,236	1123 21.4%	4096 78.2%	17 0.3%
老人保健施設	6,672	1766 26.5%	4883 73.2%	23 0.3%
介護療養病床	3,992	1082 27.1%	2897 72.6%	13 0.3%
医療療養病床	1,966	759 38.6%	1201 61.1%	6 0.3%

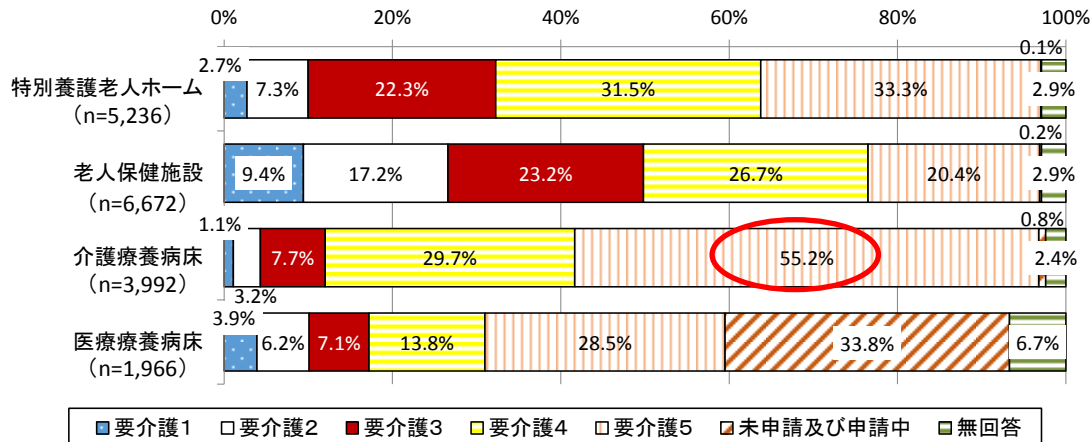
図表27 年齢

	件数	(平均: 歳)	標準偏差
特別養護老人ホーム	5,236	86.4	7.8
老人保健施設	6,672	85.3	8.4
介護療養病床	3,992	85.4	8.8
医療療養病床	1,966	81.2	11.2

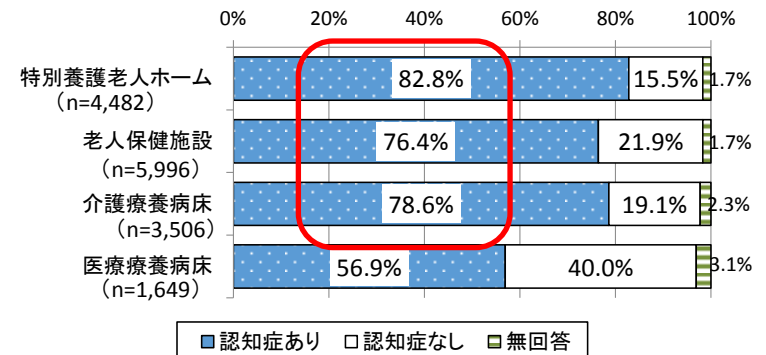
図表28 医療区分



図表29 要介護度



図表30 認知症の有無

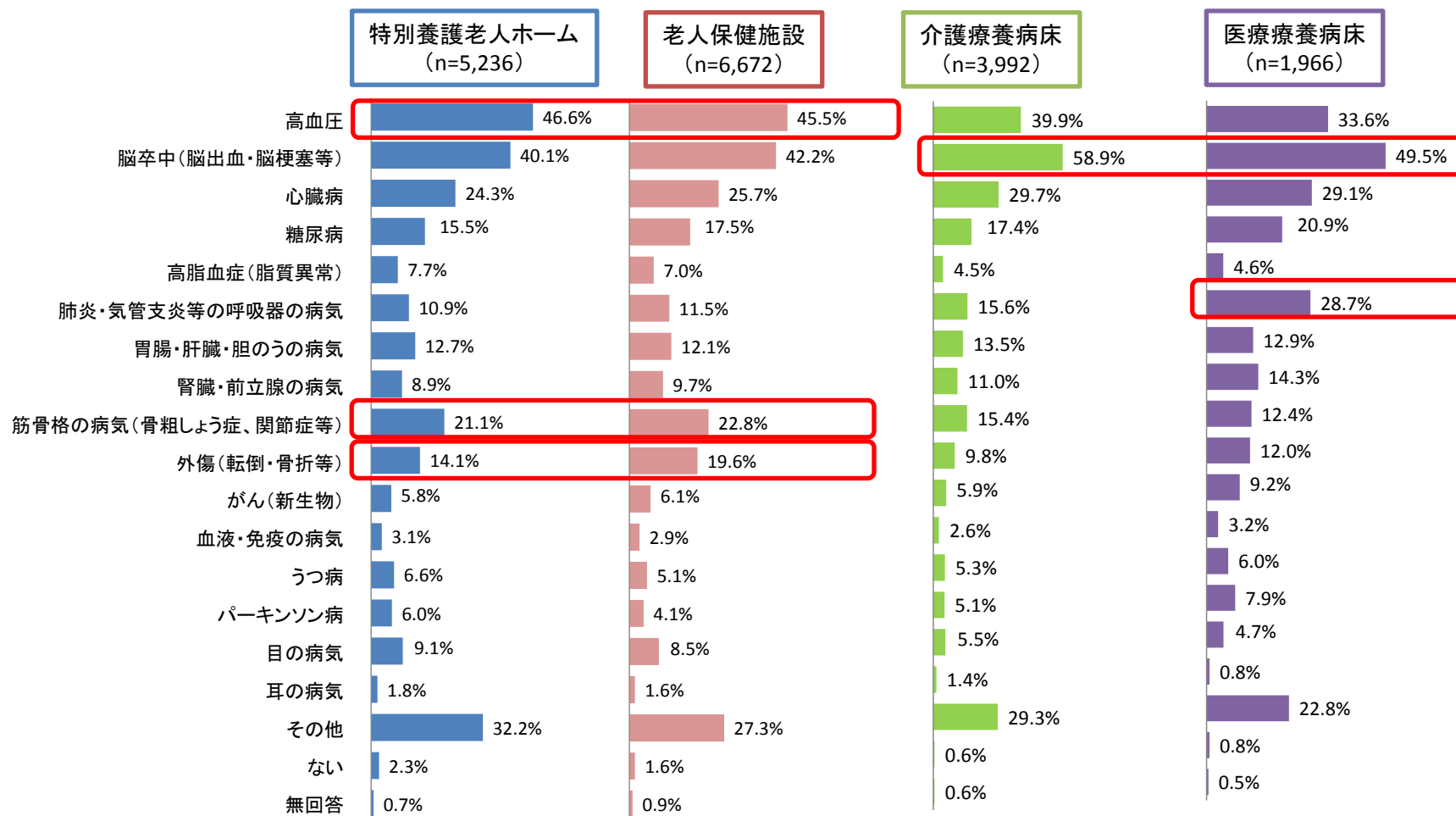


(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

6-2. 入所者・入院患者の状況(傷病の状況)

○有している傷病については、特別養護老人ホーム・老人保健施設においては「高血圧」、「筋骨格系の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」の割合が他の施設類型と比べて高かった。介護療養病床・医療療養病床においては「脳卒中(脳出血・脳梗塞等)」の割合が他の施設類型と比べて高かった。医療療養病床では「肺炎・気管支炎等の呼吸器系の病気」が他の施設類型と比べて高かった。

図表31 有している傷病(複数回答)

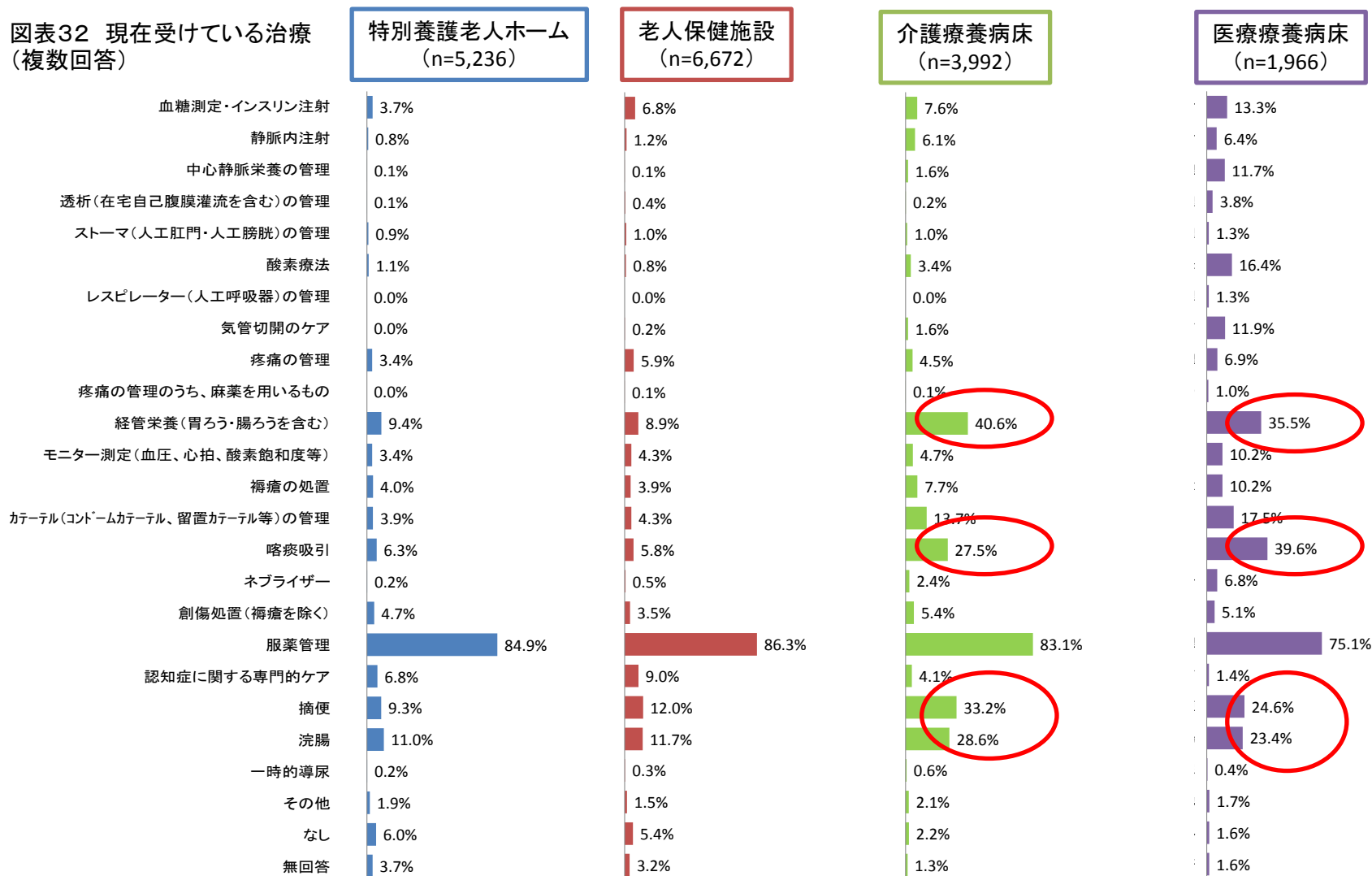


(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

6-3. 入所者・入院患者の状況(治療の状況)

○医療処置の状況については、介護療養病床、医療療養病床において「経管栄養」、「喀痰吸引」、「浣腸」、「排便」等を実施している者の割合が高かった。

図表32 現在受けている治療
(複数回答)

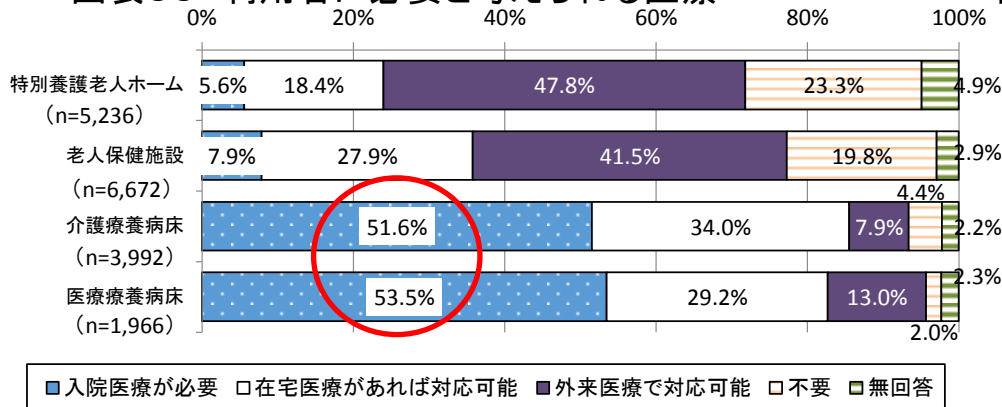


(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

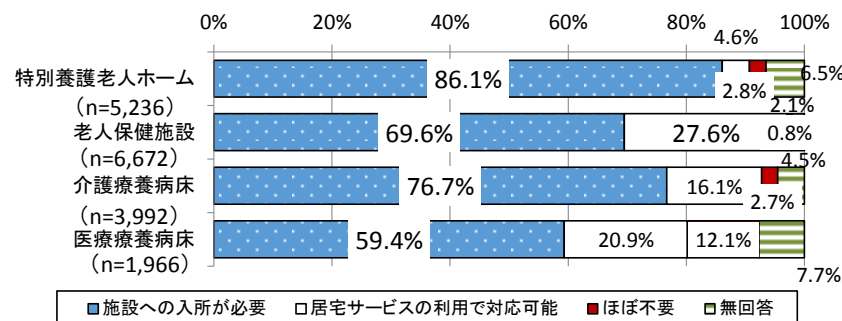
6-4. 入所者・入院患者の状況(利用者に必要な医療・介護等)

- 看護職員が判断する利用者が必要と考えられる医療は、介護療養病床と医療療養病床では「入院医療が必要」な者の割合が高く、50%を超えていた。
- 看護職員が判断する利用者が必要と考えられる介護は、老人保健施設においては「居宅サービスの利用で対応可能」な者の割合が約30%を占めていた。
- 看護職員が判断する最も適切と考えられる療養の場について、特別養護老人ホーム、介護療養病床、医療療養病床ともに自施設類型が適切との割合が最も高かったが、老人保健施設においては、自施設類型以外の「特別養護老人ホーム」、「自宅」が適切と考えられる者の割合も高かった。

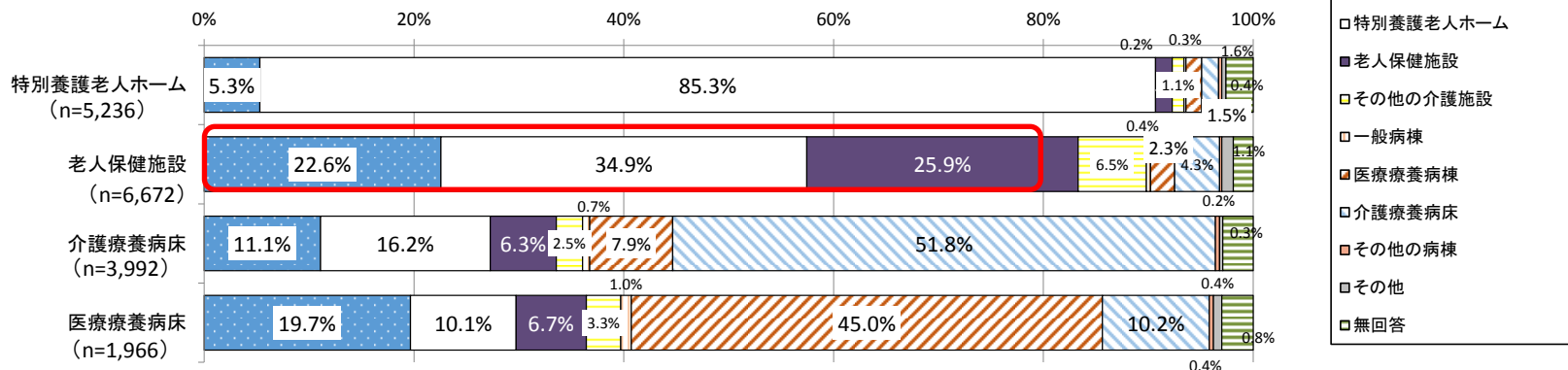
図表33 利用者が必要と考えられる医療



図表34 利用者が必要と考えられる介護



図表35 最も適切と考えられる療養の場



(5)介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

6-5. 入所者・入院患者の状況(今後の生活の場に関する希望)

○本人の希望については、「意思の表示が不可能」以外では、特別養護老人ホームおよび介護療養病床では「貴施設・貴院での療養を希望」の割合が高かった。老人保健施設および医療療養病床では「自宅での療養を希望」、「貴施設・貴院での療養を希望」が高かった。

○家族の希望については、いずれの施設類型でも「貴施設・貴院での療養を希望」の割合が最も高かったが、老人保健施設では「貴施設・貴院以外の介護施設での療養を希望」が19.6%と高かった。

図表36 今後の生活の場に関する希望(本人)

	件数	意思の表示が不可能	希望ないを把握して	貴の施設・貴院での療養を希望	自宅での療養を希望	医療機関での療養を希望	貴施設の介護を希望以外で	その他	無回答
特別養護老人ホーム	5236	2196 41.9%	729 13.9%	1839 35.1%	259 4.9%	28 0.5%	11 0.2%	53 1.0%	121 2.3%
老人保健施設	6672	2218 33.2%	1091 16.4%	1462 21.9%	1507 22.6%	23 0.3%	209 3.1%	53 0.8%	109 1.6%
介護療養病床	3992	2399 60.1%	346 8.7%	751 18.8%	334 8.4%	7 0.2%	32 0.8%	43 1.1%	80 2.0%
医療療養病床	1966	956 48.6%	217 11.0%	312 15.9%	330 16.8%	12 0.6%	56 2.8%	21 1.1%	62 3.2%

図表37 今後の生活の場に関する希望(家族)

	件数	意思の表示が不可能	希望ないを把握して	貴の施設・貴院での療養を希望	自宅での療養を希望	医療機関での療養を希望	貴施設の介護を希望以外で	その他	無回答
特別養護老人ホーム	5236	78 1.5%	367 7.0%	4481 85.6%	9 0.2%	72 1.4%	24 0.5%	68 1.3%	137 2.6%
老人保健施設	6672	55 0.8%	605 9.1%	3909 58.6%	454 6.8%	89 1.3%	1306 19.6%	129 1.9%	125 1.9%
介護療養病床	3992	93 2.3%	153 3.8%	3289 82.4%	60 1.5%	26 0.7%	246 6.2%	44 1.1%	81 2.0%
医療療養病床	1966	50 2.5%	140 7.1%	1238 63.0%	210 10.7%	23 1.2%	204 10.4%	32 1.6%	69 3.5%

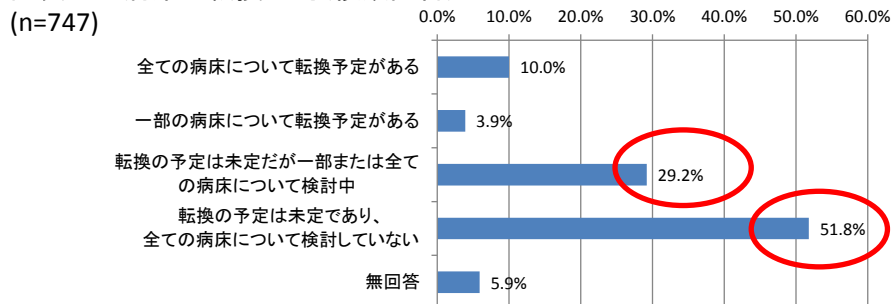
(5) 介護サービス事業所における医療職の勤務実態および医療・看護の提供実態に関する横断的な調査

7. 介護療養病床の転換意向

○病床転換意向についてみると、全ての病床について転換を予定している医療機関が10.0%を占めていた。

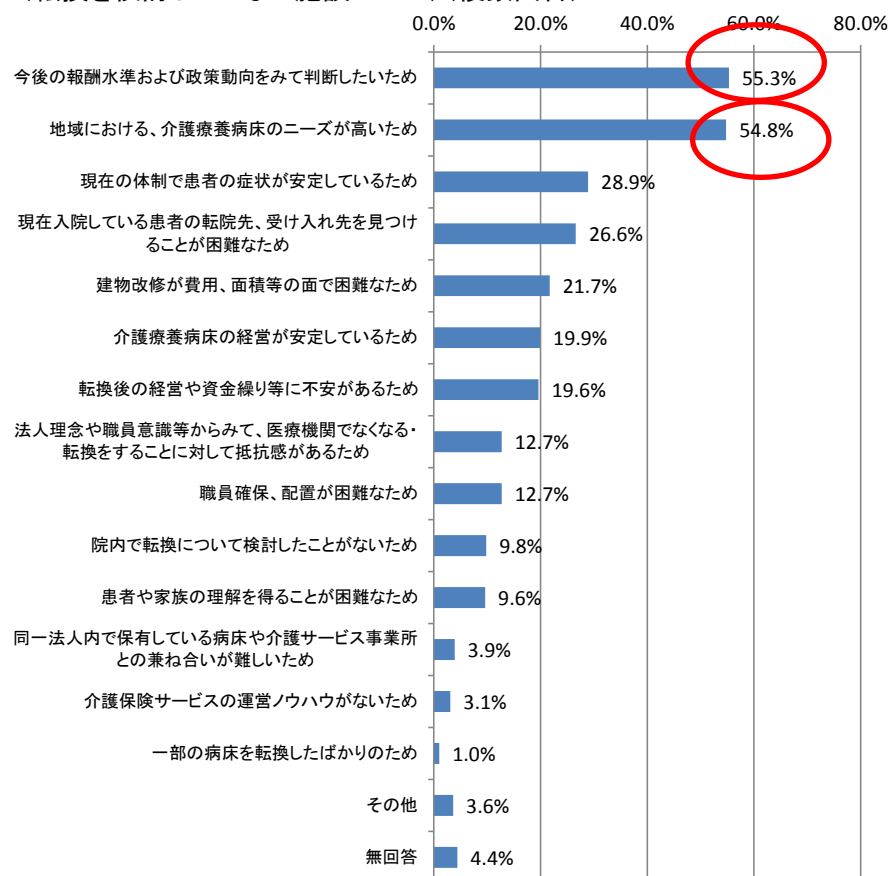
○転換の意思決定において必要な要素は、「転換後の経営状況・採算性」「現在の介護療養病床の患者の介護ニーズ」「今後の報酬水準および政策動向」等の割合が高く、50%を超えていた。

図表38 病床の転換意向(複数回答)



図表40 転換が未定である理由

(転換を検討していない施設:n=387)(複数回答)



図表39 転換の意思決定において重要な要素

(転換を検討している施設:n=317)

(複数回答)

